

図画工作科学習指導本時案

授業者 西原 有香莉

日時：平成30年10月27日（土）第1校時（9：30～10：15）

対象：第3学年A組 30人

場所：3年A組教室

本時の主張点	型取りした作品の可塑性を生かして、様々な造形操作を加えることにより、主題に向けた立体造形の探究的な学びが実現するだろう。
--------	--

1. 本時について

前時までに、子どもたちは、液体粘土を不織布に浸み込ませたものを円柱や四角柱、球などの形を包んで型取りし、様々な“かたち”づくりを楽しむ。その際、初めはどろどろとしていた液体粘土と柔らかかった不織布が、時間を置くことで固まるという質の変容を目の当たりにすることとなる。それと同時に、型取りした不織布は、積み木を彷彿させる材料となりえ、本時は、そうしてできた“かたち”を、積む、並べる、重ねる、切る、貼るなどの造形操作を試みる中で、それぞれが表現主題を形成していくと共に、その表現主題に向けて造形的な探究を行っていく。液体粘土と不織布でできた“かたち”は、柔らかく軽いため、切って形を加工することや高く積み上げるなどの活動も可能にする。そのような“扱いやすさ”が、子どもたちの自由な発想による表現活動を実現可能にし、表現の幅に広がりを見せるのではないかと考えている。

2. 本時における探究的な学びと省察性の働き

前時まで、液体粘土を不織布に浸み込ませることで可塑性が生まれることや、固まった際の素材の質の変化を目の当たりにしてきた。その一連の変化は、自らの素材への働きかけによるものであり、素材の特質を知ると共に自己の活動の意味や価値を実感することになる。さらに、このような素材との対話は、新たな造形活動へと自らを動き出させる原動力ともなり得るだろう。本時は、この体験を通してつくり出した“かたち”を使って、立体による表現活動を展開していく。その際、自分がつくり出した“かたち”を、積む、つなげる、切る、貼るなどの造形操作をする中で、イメージを広げ、「表したいこと」つまり表現主題を自ら獲得していくことになると考える。その過程では、造形操作と表現主題の多様な在り方を、友達の作品から読み取ることが可能である。このような造形活動や鑑賞における気づきは省察性によるものであり、それが上手く働くことで“自分の表したいこと”に向けて探究的に立体造形していく姿が見られるだろう。

3. 探究的な学びを支える授業のしかけ

本時におけるしかけの1つ目は、液体粘土の可塑性を活かし、型取りした“かたち”を使用することである。自らの働きかけによる素材の変化の実感、新たな造形操作に自らを突き動かすだろう。2つ目は、「場の設定」である。机の使用は子どもの表現活動によって選択するものとし、教室を広い空間に置くことで、子どものイメージを実現しやすく、より自由で豊かに表現活動できることを促すと考える。3つ目は、それぞれの表し方を見合い、紹介し合える場（時間）を適宜、設定することである。それにより、自他の表現や活動それ自体のよさへの気づきを促し、さらに「もっとこうしてみたらどうだろう。」という思いを誘発することを予想する。

以上の3つをしかけることで、子どもたちの探究的な学びが展開されることをねらう。

4. 育みたい資質・能力

探究力	省察性
<ul style="list-style-type: none"> 造形操作によって生み出されていく“かたち”からイメージを膨らませ、立体表現を主体的に探究する力（創造力） 多様な造形操作を試みる中でイメージを広げ、自ら表現主題を形成していく力（課題設定力） 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な造形操作によって変化する“かたち”のよさや特徴を、敏感に感じ取る力（創造力を支える省察性） 様々に変化する“かたち”から、自他の造形操作の意味や価値を感じ取ったり言葉で表したりする力（創造力を支える省察性） 活動において生み出され続ける“かたち”を造形的な視点で捉え、イメージを膨らませたり言語により明確にさせたりする力（課題設定力を支える省察性）

5. 本時の目標

- 表したいことに向けて、多様な造形操作を効果的に行うことができる（知識・技能）
- “かたち”のよさや特徴を活かしながら、立体による造形活動を多様に試みる（思考力・判断力・表現力）
- 自らの表現主題を形成すると共に、その実現に向かおうとする（主体的に学習に取り組む態度）

6. 本時の展開

学習活動と予想される子どもの反応	留意点・評価
<p>1. 本時の学習を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時までにつくった“かたち”から、さらにどのような造形操作（積む、切る、貼る、など）ができるか考える。 多様な造形操作から、活動してみたいことを想起する。 <p>2. “かたち”を組み合わせて、立体による造形活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> どんどん積み重ねて高いタワーをつくる。 横にくっつけたりつなげたりして家をつくる。 お気に入りの形を組み合わせて、もっとおもしろい形をつくる。 友達と見合うことで、さらに表したいことや活動したいことを見つける。 <div style="border: 1px solid gray; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>“かたち”をじっくり見る 全体を確認する “かたち”のよさに気づく つけたり離したりする 積み上げる 使いたい形に切る 貼り付ける 友達と一緒につくる 友達の活動や表現を見る</p> </div> <p>3. 本時の学習を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> お気に入りの部分を紹介する。 「ここを注目して！お気に入りのところ。」 「○○ちゃんの、この“かたち”の組み合わせ、いい感じ。」 「高く高く積み上げたら、背を超えたよ。」 図工カードを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時から取り組んでいる活動を振り返り、本時のめあてを知らせる。 それぞれの“かたち”にできそうな造形操作について、話し合ったり伝えたりする。その際、子ども自身でさらに工夫し活動を広げられるようにするため、造形操作は伝えすぎないように留意する。 自分の表現主題を見つけられず、活動が止まっている子や悩んでいる子には、その子の思いや発想を大切にしながら、周りの友達の表現にヒントをもらうことや、表現したいことを一緒に探す。 イメージしていることが、なかなか表現に結びつけられていない場合、すでに出された造形操作が使える場合は伝えたり、他の子がしている造形操作が転用可能な場合は全体に投げかけたりして、造形操作のヒント与え、表現主題の実現に近づくようにする。 それぞれの表現のよさを、造形物だけでなく言語で伝え合うことで、活動の意味や価値の明確化を促す。 1つの表現に対して複数人の意見を聴くようにして、多様な見方があることや価値があることを実感できるようにする。 <p>知 表したいことに応じて、“かたち”の特徴を活かし、さらに造形操作を効果的に行っている。</p> <p>思 “かたち”に多様な造形操作を加えることからイメージを広げ、表現主題を形成すると共に、表現の工夫を考えている。</p> <p>主 表現主題を模索すると共に、イメージの表現活動を楽しんでいる。</p>